

CISJ定例研修会



『審美インプラント治療における テッシュマネージメント』

by Dr.石川知弘

場所：東京ステーションコンファランス

日時：平成22年10月17日（日）

：略歴：

昭和63年 広島大学卒業
平成8年 石川歯科開業
平成21年 5-D Japan設立

：所属：

米国歯周病学会会員
日本臨床歯周病学会
指導医
OJ常任理事
静岡県口腔インプラント
副会長
5-D Japan ファウンダー

：石川歯科：

〒435-0052
浜松市東区天王町1743
TEL 053-466-6480

：抄録：

部分欠損に対するインプラント治療のメリットは残存歯に負担をかけることなく、固定性の欠損補綴を行えることである。特に前歯を失った患者にとっては心理面でも効果が高いと思われる。ただし前歯部においてインプラント治療を成功させるためには機能と同時に審美性の獲得を達成する必要がある、インプラントの現在の成功基準としても審美性の回復がその条件のひとつとなっている。近年低侵襲、治療期間の短縮に感心がよせられているが、治療結果の質について正当な説明がなされた場合患者の選択は必ずしも画一的ではないはずである。かつての外科主導型の治療から、補綴主導の考え方が発展した経緯を今一度考慮する必要があるのではないだろうか？つまりオーバーレイデンチャー、人工歯肉を有する固定性上部構造、クラウンブリッジのいずれのタイプのインプラント補綴であっても、目的に応じたテッシュマネージメントは必須であると考え。特にクラウン・ブリッジタイプを目指す場合、インプラントのポジションが適切であること、インプラント周囲の骨、軟組織が三次元的に再建されていること、天然歯のような歯周支持組織を持たないインプラント周囲組織の特性を理解し、それにより発生する問題をできるだけ回避するための適切な補綴設計を立案することが要求される。そして、治療期間中できるだけ快適にすごしていただけるような配慮も欠かすことができない。本講演では、さまざまな術前の状態を示す患者において術前に個々の治療目標を設定することの重要性と目標を達成するための適切なインプラントの埋入位置に関する考察、また周囲組織のマネージメントについては、審美性、清掃性を獲得するための目標となる歯槽骨形態の理解とその再建手段として吸収性膜とチタンメッシュを利用したGBRテクニックの紹介、成功のためのポイント、また軟組織増大の必要性とその術式について症例を通して解説したい。参加者の臨床に少しでも役立つことができれば幸いである。